

## ランキング!

2006年10月、情報誌『日経グローバル』（日経産業消費研究所発行）の特集「779市・23区の行政比較調査」において、全国市区の行政革新度の順位が発表されました。三浦市の結果は、全国で572位（前回2004年は358位）、神奈川県内で回答した18市の中では最下位でした。これに対し、近隣では、横須賀市は全国26位、逗子市は4位、鎌倉市は43位と全国的に上位に位置しています。

詳細を見ると（カッコ内は前回の結果）、三浦市の総合偏差値は42.32(47.96)、透明度評価はBBB(B)、効率化・活性化度評価はCCC(CC)、市民参加度評価はCC(CCC)、利便度評価はCCC(A)、総合評価はCC(B)で、多くがCランクとなっています。

この結果は、ある一定の指標を用いて評価し、それを偏差値に当てはめて格付けをしたものです。限られた指標を使った評価であるため、使われている指標がたまたま三浦市にとって不利なものである可能性もあります。また、「利便度評価」がAからCCCに大きく下がりました。



が、これは三浦市の利便度が2年前よりも大きく下がったためではなく、他市の利便性が軒並み上がったことによるものだという可能性もあるかもしれません。

しかし、理由はどうであれ、客観的に比較した結果、三浦市の行革度合いが低いと評価されたことは紛れもない事実です。もし、保険会社などが格付けで良い評価を受けると、それを大々的に広告し、消費者はその会社の商品に対して漠然と安心感を覚えるものです。今回の結果は「三浦市」にマイナスイメージが付くことにもつ

ながると考えられ、このことは真摯に受け止めなければなりません。

評価に使われた指標を見ると、行政側が努力をすればよい成績を収めることができる類の調査である



可能性が高いと言えます。この調査は隔年で実施されているもので、三浦市が現在取り組んでいる『行政革命戦略 5つの宣言』に沿って着実に変わっていけば、「効率化・活性化度」の順位を2年後に上げることは難しく

ないかもしれません。しかし、現状のままでは、「透明度」「市民参加度」「利便度」の格付けは今よりも低くなってしまいう可能性もあります。

高い評価を得られれば、その結果は定住誘致をする際などに三浦市をアピールするための、便利で効果的なツールになると言えるでしょう。他市も努力している中で上位にランキングされることは容易ではありませんが、今回明らかにされた弱点の強化策を考え、すぐに行動に移さなければならないと感じています。

< 政策経営課 吉本道子 >

明治大学プロデュース 三浦市東京支店

**なごみま鮮果**

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~nagomima/index.html>

「ぼっこすこせえる」とは・・・

神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

## いつだってトライ&エラー

トライ・アンド・エラー。試行錯誤。行政革命の実践を通じて私たちが経験した失敗とその打開策をご紹介します。

**庁**内には様々な会議があります。臨時的な打合せ会議や法や条例等による常設のもの以外にも、業務課題への対応策を検討するための×検討委員会といった任意の会議体がたくさんあります。

**三**浦市では、平成15年度に「三浦市プロジェクトチームの設置等に関する規程」というものを策定しました。これは、×検討委員会のような会議体の設置を全庁レベルで公式に認知し、その目的達成に至るプロセスを管理するためのルールです。それまでは各部、各課の判断で、要綱などを作成し、それに基づいて×検討委員会を設置し、運営していましたが、それはあくまでも各部、各課の判断によるものであり、その運営も各部、各課に任せられていました。

**会**議体ごとの構成員が複数の部をまたがった横断的なものもあれば、部内限り、課内限りで構成するものもありました。また、いわゆる“充て職”で構成するものもあれば、“人物本位”で構成するものもありました。わずか400人程度の行政職しかいない市役所であるにもかかわらず、庁内にどのような目的の会議がいくつあって、それぞれがどういう方針で設置・運営され、どのような進捗状況にあり、いかなる成果を出しているか、といったことを全庁的に把握しきれていない状況でした。

**こ**のような状況を解消するために庁内全課を対象に調査を行いました。その結果、数十の会議体が設置されていることがわかりました。驚いたのは、設置はされたが検討成果が確認されないまま休眠状態になっているものがいくつも存在していたことです。調査結果を踏まえて、原則として「三浦市プロジェクトチームの設置等に関する規程」に即して設置し直すか、または廃止するなどの処理をしました。

**こ**の規程の対象となる会議体は“部門を越えた横断的課題について研究をし、政策提案、事業提案をまとめる”プロジェクトチームです。チームの設置は助役を議長とする庁議「経営戦略会議」において設置案を審議し、目的や検討項目、スケジュール、構成員等を確認したうえで設置を認めます。構成員は基本的に“充て職”ではなく能力本意とすることを求めています。検討経過、結果を経営戦略会議に報告することを義務づけ、休眠状態になることを防いでいます。こうして、三浦市役所内に設置されたプロジェクトチームはその全貌をしっかりと管理することができるようになりました。

**し**かし、この規程では対応しきれない事案がいくつか現れてきました。例えば「市制50周年記念事業プロジェクトチーム」です。そもそもこれはイベントの企画案を検討するために設置されたものでした。前述の通り、この規程が想定するプロジェクトチームは“部門を越えた横断的課題について研究をし、政策提案、事業提案をまとめる”ことを使命としています。ところが、「市制50周年記念事業プロジェクトチーム」では、自らが企画したイベントについて、その構成員たちが中心となってイベントの準備という“実行”をする動きになってきたのです。“研究・提案”を使命とするプロジェクトチームが“実行”をするようになってしまいました。その意欲は高く評価されるべきでしょうが、ルールからみればイレギュラーです。構成員をプロジェクトチームに送り出しているそれぞれの職場にとっても、構成員自身にとっても想定外のことです。厳しく言えば「約束違反」ということにもなります。急を要する事態であったため、「市制50周年記念事業プロジェクトチーム」については「実行」を担うことについて不問とし黙認してしまいましたが「三浦市プロジェクトチームの設置等に関する規程」が庁内横断的な事業実行体制には対応しきれないものであるという課題が浮き彫りとなりました。

**乱**立する会議体の全貌を把握し、市の公式意思決定機関である庁議のもとで進行管理ができるルールをつくり、これを遵守することに職員が慣れてきたころに、新たなエラーが顕在化してしまったというわけです。

(次号に続く)

次号(第5号)は12月21日発行です。



三浦市長の吉田ひでおです。「国があなたに何をしてくれるかを求めるのではなく、あなたが国のために何ができるかを自問してほしい」。米国大統領ジョン・F・ケネディの就任演説での名言です。私はこの言葉を職員に向けて投げかけたいと思います。

所属する部・課の業績を高めるため自分に何ができるか、市役所全体のために部・課として何ができるか。今の三浦市全体、市役所全体の状況をよく認識したうえで、よく考え行動してほしいと思います。「目標達成のために予算の割り当てを増やしてくれ」ではなく、「1円でも少ない予算で目標を達成しよう」という気概が大切です。これは企業では当たり前の発想です。株式会社三浦市の社員にも同じように発想してもらいたいと思います。平成19年度予算編成作業もいよいよ大詰めの時期です。みんなで知恵を凝らして、「シンプル、スピード、サービス」を備えた市役所にしていきたいと思います。